

平成 23 年度小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会
第 2 回保全管理委員会 議事概要

平成 24 年 3 月 3 日（土）16：30～18:00
小笠原村地域福祉センター 2 階会議室

1 オガサワラノスリのモニタリング結果について

調査結果について特に大きな問題はなく、現行どおり月 1 回のモニタリングを継続することが了承された。

なお、委員から出された主な意見、質疑等は以下のとおり。

- ・個別の指定ルートでのモニタリング結果では特段の影響は出ていないが、森林生態系全体を見た場合、弟島や兄島では、ネズミやノヤギの駆除のために人が入ることにより、生息地が減っている状況である。森林生態系の頂点に位置する生物として、種の個体群の維持について評価してほしい。

2 聳島ルートの試行状況

現行の方法で平成 24 年 9 月末まで試行を続けることが了承された。

なお、委員から出された主な意見、質疑等は以下のとおり。

- ・スナハキバチは、他の島と比較して聳島には非常に多いのか。
- ・苅部委員にスナハキバチの生態等についてガイドに説明してもらってはどうか。
- ・スナハキバチに配慮するよう看板等で指示するだけでなく、ガイドには観光客に対して写真等で具体的な生態について説明してもらいたい。

3 小笠原陸域ガイド登録制度への対応

小笠原陸域ガイド登録制度への対応については、特段の意見はなかった。

4 平成 23 年度固有森林生態系の修復事業等の実施結果及び平成 24 年度の事業予定について

平成 23 年度の事業実施結果及び平成 24 年度の事業予定について了承された。

なお、委員から出された主な意見、質疑等は以下のとおり。

- ・オガサワラグワは、アカギによる生息地の減少やシマグワとの交雑等の問題がある。平成 24 年度事業予定の「オガサワラグワ等小笠原固有の森林調査事業」については、平成 23 年度に実施された「アカギ巻枯らし効果の検証調査事業」の結果も踏まえ、様々な観点から総合的に事業を進めてほしい。
- ・弟島ではオガサワラグワの成木が枯れており、発芽しても生長せずに枯れるものが多い。土壌の中に種を蒔けば増えるのではないかと。弟島でもオガサワラグワの事業を実施してもらいたい。

5 その他

(1) 前回の保全管理委員会で保留となった東京都の母島での活用案件について

現在保留となっている母島の活用案件について、東京都から工事の概要と現在の状況について説明があった。委員から出された主な意見、質疑等は以下のとおり。

- ・アドバイザー会議には事業執行の可否についての決定権がないことを認識していないようなアドバイザーの発言があるが、林野庁としてはどのように考えているのか。
- ・最終的な決定権を有する保全管理委員会には、第三者の意見として出されたアドバイザー会議の科学的なアドバイスを正確に理解し、事業の可否を判断するという重い責任があるが、事業内容も含め、情報が届いていない。非常に重要な案件であるので、アドバイザー会議の審議内容については議事概要ではなく、議事録全体を見させてもらいたい。
- ・事業に携わる行政と自然保護に携わる委員がお互いの立場を尊重しながら、事業が前へ進むような形で検討してもらいたい。

(2) その他

- ・観光客が増え、東平にトイレが必要である。その内、し尿関係でトラブルが起こると思うので、関係機関で調整し、少なくとも2つは設置してもらいたい。